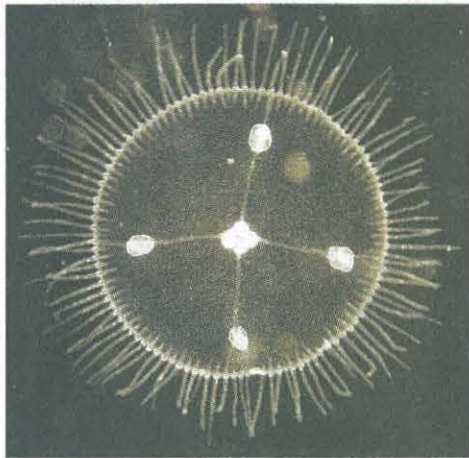


紀 伊 民 報

オベリアクラゲ



円盤型をしたオベリアクラゲ

久保田 信

15

普段よく出合うクラゲといえば、傘型が普通である。しかし、どの世界にも変わり者はいるもので、今回紹介するオベリアクラゲは、仲間はずれな傘型なのに、唯一、円盤

型をしている。オベリアクラゲは小型のクラゲで、直径が数センチしかない。画像は口側から撮影しており、まるで傘の中心のふくらみが胃袋や口の部分にあたる口柄である。そこから十字形に4本の放射水管が伸び、円周を巡る環状水管と連結している。胃袋で溶かした栄養を管内に生えている繊毛を動かしながら体中に送る。

り、雌なら卵、雄なら精子がたくさんできる。オベリアクラゲは世界中どこにでもいて、田辺湾でもプランクトンネットをひけばいつでも採集できる。ポリプは植物のような形をしているが、刺激すると青白く発光することが昔から知られている。オベリアクラゲの生活史は、外国の生物学の教科書などで刺胞(しほう)動物の代表種としてよく紹介されるが、実際は分類が大変難しく、「オベリアクラゲの一種」と紹介すべきである。

この仲間について、ポリプからクラゲを飼育して生活史を明らかにして世界で初めて報告したのが筆者である。大学院時代の若かりしころで、このおかげで今でも世界一クラゲの飼育がうまいということになっている。日本にはたくさんのオベリアの種類がいるのだが、生活史が分かっているのはわずか2種しかない。世界的にもこのような研究はなされていない。

(京都大学准教授)

